

# このスポット・おすすめ!

自家製ソーセージ&ベーコンと  
北海道産の新鮮な海産物  
**SMOKE HOUSE 225**

ランチやテイクアウトもスタート  
7月は1周年記念企画を實施  
肉のしつかりとした旨味を感  
じる自家製ソーセージやベー  
コンは、北海道直送の新鮮な魚介  
とときにはエソジカ肉や西表島の  
イノシシ肉など珍しいメニュー  
も登場し、食事とお酒を一緒に楽  
しめる癒れ家バルとして、ひそか  
に畜産人気を集めています。  
「素材の特徴を生かした無添加の  
優しい味の料理を食いたい」とい  
う独自の思いを半ばかなえる  
ためにオープンしたお店です。北  
海道出身なので現地の仲間人と  
も交流があり、その時々で手に入  
る最高の魚を提供しています。  
は店主の村上吉弘さん。一方で看  
板メニューであるソーセージな  
どは無産豚にこだわると、その  
他の素材は沖縄県産が中心。北と  
南の味のコラボレーションが案  
じめます。  
通常は夕方6時開店ですが、現  
在は新型コロナウイルスによる  
外出自粛の状況に配慮しながら、  
ランチやテイクアウト用の「ココ」  
をスタート。ランチは土・日曜日  
限定で「札幌スープカレー」を用  
意し、「丸かつ」などの週末を過  
すお楽しみメニュー。午後1時から夕  
方4時まで営業。コロンではコ  
ンドメニューの中から少しずつ  
ピックアップした料理を専用B  
OXに入れて持ち帰り用に販売  
しています。  
7月19日(土)オープン開催。「記  
念企画を検討していますのでぜひ  
お楽しみにしてください。ま  
まはランチメニューでも通常利  
用でもお好みのスタイルで、気軽  
に利用してみたいですね。」

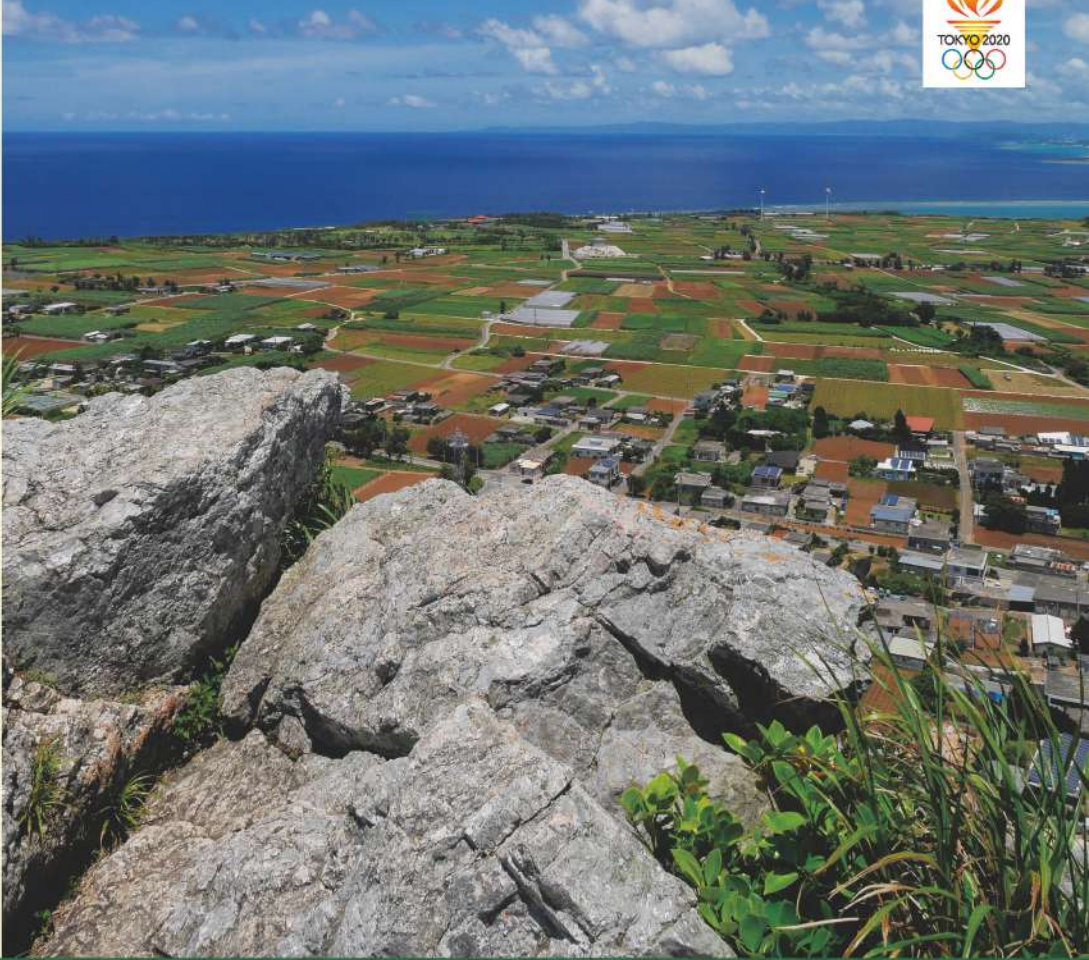
住所 / 読谷村長浜225-1  
営業 /  
【ディナー・デリ】18:00~22:00  
【ランチ】13:00~16:00  
(L.O.15:30、土・日曜日限定)  
※デリは事前連絡があれば  
営業時間外でも利用可能  
休み / 月曜日  
駐車 / 3台  
http://smokehouse225.com



# Fresh ワインズ

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報紙

Fresh Win  
2020年  
7月号  
Vol.190  
2021  
TOKYO 2020  
オリンピック



## 読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『SMOKE HOUSE 225』で使える

**2,000円分 お食事券** **3名様**

6月号当選者 前号の答え(飛行機)

- ★下里玲子さん(宜野湾市在住)
- ★比嘉あけみさん(読谷村在住)
- ★中里セツ子さん(北中城村在住)

## ワイワイ広場

### 読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良崎237-1 ワインズ『広報誌編』

①住所 ②氏名  
③年齢 ④職業  
⑤電話番号

⑥なぜその答え

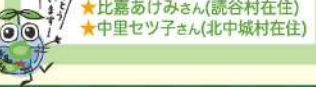
⑦ご意見  
⑧感想

締め切り **2020年7月20日消印有効**  
【当選者は次号(Vol.191)にて発表致します】

『Fresh ワインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ワインズ広報誌係)

by 1st 飛子

Fresh ワインズに拝見します。  
我が家にも、祖父から譲り受けた三輪があり、時々手に取って走ったりします。三輪は習った事はないですが、自然に祖父や父の姿を見ながら音を探して簡単な曲を弾ける様になりました。  
沖縄の伝統工芸として受け継がれる事を願って、私も子供達に三輪にのれる機会を作りたく思っています。



読谷村 池原建設 企画事業部 ワインズ  
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良崎 237-1  
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや  
補修等のご相談は、お気軽に  
スタッフへお声掛け下さい!

0120-229-512 ワインズ 池原建設

## 読谷村想い合い手作りマスク1000人プロジェクト

読谷村在住の中村喜美枝さん親子から、300枚の手作りマスクの寄贈を受けたことを機にスタートしたプロジェクト。有志の皆さんから届いた手作り・市販マスクを、読谷村内で必要とする方や施設へ提供します。



受付先: 読谷村役場 1階 福祉課 tel. 098-982-9209

平年より11日早く梅雨が明け、日常生活も徐々に戻ってきました。紫外線や熱中症にも気を付けながら、ゆっくりと以前のペースをつかんでいきましょう。  
7月だけに限らず、今年は既に年内いっぱいまで、たくさん恒例イベントの中止が発表されています。来年以降の飛躍に向けた、足元を見つめ直す機会にしたいですね。





～スマイルビジョン～

# Smile Vision!

障害者への取り組みを通じて社会全体を幸せに  
「うちなーからはーい」伊波寛也さんが描くこれからの福祉



■伊波寛也さんは読谷村出身。「まずは生まれ育った大好きな読谷村で福祉の理念を浸透させて、いま以上に住みよい社会を築きたい」と目を輝かせています

「病気や障害を持った方が、同じような境遇の方々への希望の存在となるように。利用する一人一人が世の光(羅針盤)からはーい」となれるように」と話す一般社団法人うちなーからはーい代表理事の伊波寛也さん。福祉事業を通じて、すべての人にとって幸福な社会を築く方法を一緒に考えてみました。

## ■同じ障害者を持つピアスタッフを職員として積極的に採用

障害の有無にかかわらず、一人一人が等しく個人として尊重され、お互いに支え合う社会。障害者基本法にも書かれたこうした理念的な文言にはおそらくほとんどの人が共感するでしょうが、理想と現実の間にはまだまだたくさんギャップがあり、目の前の現実的な課題を克服すべく、行政・医療機関・社会福祉団体をはじめさまざまな組織や個人が日々活動しています。



■ピアスタッフの伊敷さん。利用者と同じ経験を持つ当事者として専門性を発揮しています



■相談員の深谷さん。「からはーい相談支援センター」の事業で計画相談を担当しています

法人うちなーからはーい(読谷村大木)は、「読谷からはーい(就労継続支援B型/就労移行支援)」からはーい相談支援センター(委託相談/計画相談)の主に2つの事業を行っています。設立は2014年7月、このうち「読谷からはーい」の内容をみていくと、仕事に就くのが難しい障害者に対して、生産活動の場を提供したり、知識や能力向上のトレーニングと同様に一般企業への就職希望者に対するサポート(移行支援)にも力を入れています。その中で大きな特徴は「ピアスタッフ」を積極的に雇用していること。ピアとは英語で「仲間」を意味し、利用者と同じ障害や疾患のある当事者が職員として働いています。同じ問題や状況を経験しているからこそ、対等な関係性を築けるなどメリットは多く、代表理事の伊波寛也さんは導入に至った経緯を次のように説明します。

「からはーい設立前は社会福祉団体で知的障害者の就労支援に従事していました。障害者雇用に関する法律が整備されてきたとはいえ、企業と就労希望者のニーズをなかなかうまくマッチングできないケースも多く、たとえ

雇用が決まったとしても、障害者に対する偏見はなかなか解消されないまま。果たして世の中の理解を得るにはどうすればいいのだろうか?と考え続けた結果、たどり着いたのがそれなら自分たち自身で雇用して事業所を運営してみよう、という結論で

## ■「福祉に向いていない自分だからこそできること」

約25年もの長きにわたって障害福祉に携わっているものの、伊波さんの口癖は「自分には福祉は向いていない」。福祉専門のスタッフらの献身的な姿を見るたびに、「自分には到底あそこまでできない。本当に頭が下がる思いです」と繰り返し返します。それではなぜ障害福祉に携わるようになったかといえば、きっかけは政治、経済や社会問題を扱うミニコミ紙の記者をしていた前職時代にさかのぼります。毎日ネタ集めに奔走するなか、不思議と福祉分野に興味を引かれ、気付けば頻繁取材するようになっていました。



■読谷村社会福祉協議会での定例会議の様子。複数の団体で課題を共有して解決策を議論したりしています

福祉のスペシャリストにはほど遠いと感じていても、「一人権尊重や社会正義など福祉が掲げる理念は、人類が到達した一つの英知であり、私の拠る所にもなっています。それを福祉の中だけでなく、どう地域社会に広げていくか。そのためには福祉業界内だけではなく、福祉の外の世界と積極的に関わっていくことが重要であり、「福祉に向いていない自分だからこそ、活動できる領域がある」との決意につながりました。

障害や生きづらさを抱えた人たちに優しい社会は、そこ



■畑でのニンジン収穫の様子。利用者にとっては「働いて対価を得る」という経験に加えて、農家とのコミュニケーションも大きな刺激になっています

## ■福祉事業によって社会的課題を解決「働けしなやかな社会」の創造へ

福祉は単なる理念ではなく、社会基盤を揺り動かすだけの計り知れない力を備えています。伊波さんがからはーいを立ち上げた理由の一つは、失業や貧困、偏見、差別といった社会的課題を福祉事業を通じて解消すること。前述したピアスタッフの雇用もその一つですが、他にもさまざまな企画やプロジェクトを実践しており、例えば現在では農業に力を入

に住むすべての人にとっても住みやすい社会のはずです。福祉の理念が浸透すればきっと社会全体の優しさも増し、そのきっかけになるのが「誰もが当たり前前に働けること」といえます。



■「からはーい」の事務所は読谷村大木の住宅街にあります。「相談・見学はいつでもWelcomeですよ。気軽に遊びに来て下さい」と伊波さん

ここで目指すべきは、大きな社会的課題になっている農業の担い手不足を、同じように社会的課題とされる障害者の雇用によって解消していくという構図です。つまり障害者にとっては、サポートを受け側から社会的課題を解消する「主役」になれる可能性があり、地域で働く機会を得ること、ひいては偏見や差別の軽減にもつながります。これはまさしく「障害者がマイナスに作用しない」「仕組みの典型であり、まだまだ手探りの段階ですが、将来的には社会参加に困難を抱えている方々も参加してもらいたい」と意気込んでいます。

時代は大きく変わり、障害福祉も変化しています。「施しの福祉」から「自立・連帯・協働の福祉」へ。社会から隔離された閉鎖的な福祉から開放的な社会全体の福祉へ。福祉は限られた人たちのものではありませんが、福祉の本来の意味は「幸せ」。限られた種類の生態系よりも、多様な生物が互いに影響し合っている生態系が強くしなやかであるように、私たち人類も多様な個性、価値観を認め合い、互いに支え、助け合って初めて、より強

